

他業界とのコラボを目指す 子供も独立、家庭はゆったり

店外オンラインPTリーダー 佐々木敏栄



なりました。新入社員研修で教えられた日本電信電話会社法の「あまねく、かつ公平に」は、何故か今でも忘れられない言葉です。昭和58年に東京へ転勤後、民営化の流れでNTTデータへ配属となりました。

プライベートでは3人の子供がいますが、昨年までに3人とも社会人となり、子育ては終わりました。そのタイミングで我家にピース（トイプードル）が仲間入りです。妻の様子は、まるで4人目の子供ができたようです。その影響が私へも・・・写真は我孫子市あやめ祭りの会場をピースと散歩した時に撮ったものです。今年は結婚して30年を迎え、夫婦で4月に京都を旅行しました。家庭では

ゆったりと寛いでいます。パチンコ業界との関わりは、昭和63年に日本レジ

ヤーカードシステム(株)のプリペイドカードシステムの設計・製造を担当したのが始まりです。その後、J-NET社の貯玉システムの設計・製造を担当し、その後システムの出来が良かったのか？悪かったのか？システムの諸元を作成した一員として同社へ出向となり、現在に至ります。



考えています。建前と本音を業界の中でキチンと区分できるのは、日遊協しかないと思っていますからです。

そんな私が本年6月より、貯玉補償基金の事務局長の重職を深谷代表理事より拝命したことに運命的なものを感じます。

店外オンラインPTでは福井副会長に御指導を仰ぎながら流通業界とコラボできるビジネス形態を模索中です。ビジネスが成り立てば、他業界の協力は得られるはずですが、ホールがどうあれば、ファンは一般景品を持ち帰ってくれるのかを試行実験しています。他業界とのコラボが実現すれば社会の見る目も少しは変わります。

今年6月に店外オンラインプロジェクトチームのリーダーになりました佐々木敏栄（トシヒデ）です。よろしくお願います。初めての寄稿です。自己紹介をさせていただきます。昭和51年に地元長崎の高校を卒業後、電電公社に入社し長崎電報局勤務と



愛犬のピースを抱く佐々木さん

日遊協との関わりは平成15年、北海道の法人破産に伴う貯玉ファンへの対応でした。これをきっかけに貯玉補償基金への100%加盟と財源強化に向けて当時の日野二郎経営委員長の下で活動しました。

私は、日遊協が目指す「健全化」「近代化」「適正化」そして「社会的地位の向上」を自分の道標と

これからも自分の道標を信じてファン、業界、一般社会のそれぞれの視点に配慮しながら頑張ります。